

Information

グループホーム「ハーモニーやまなみ」

入居者募集中

下記のグループホームに空き室があります。
入居希望のご連絡お待ちしております。

【ハーモニーやまなみ3号】

共同生活タイプ（女性専用） 1部屋

【ハーモニーやまなみ6号】

アパートタイプ（男性 or 女性）1部屋

【問い合わせ】

ハーモニーやまなみ 松岡・小林・下田まで

TEL 0279-54-2947



新年度(令和4年)度賛助会員募集中!

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口2,000円で何口でもかまいません。昨年に引き続き、皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000円(一口)

山脈ニュースをお届けします

賛助会員になられた方には、毎月、当法人の活動の内容をお伝えする「山脈ニュース」をお届けします。

発行

特定非営利活動法人 山脈 理事長 笹澤 繁男

住所：〒370-3604 群馬県北群馬郡吉岡町大字南下 983-2(みやま工房内)

電話：0279-54-2947 FAX：0279-54-9171

E-mail：rep@npo-yamanami.jp

URL：<http://www.npo-yamanami.jp/>

運営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」

就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」

就労継続支援B型事業所「キッチンハウスみやま」

多機能型事業所(生活訓練・就労移行支援・就労定着支援・就労継続支援B型)
「ワークハウスみやま」

グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・5号・6号

(文責：笹澤賢一)

NPO
法人

山脈ニュース

2022.2

No.223

吉岡町保護司会・更生保護女性会の施設慰問を受けました

昨年12月3日(金)、吉岡町保護司会の保護司さんと吉岡町更生保護女性会の役員さんが施設慰問にみえました。毎年12月に慰問に来て頂いているのですが、昨年と同様にコロナ禍における慰問となってしまいました。本来であれば施設内をご案内して、様々な作業をしている利用者さんの様子を見て頂きたいのですが、屋外にて慰問品のお菓子と慰問金の授与のみとさせて頂きました。

お菓子は利用者さんのクリスマスプレゼントとして配らせて頂きました。慰問金については有効に活用させて頂きます。本当にありがとうございました。



共同募金の配分を受け、長ネギの管理機を導入しました



みやま工房は、赤い羽根共同募金の配分を受け、長ネギの管理機を新たに導入することができました。長ネギは農業班の冬場の主力となる作物です。良品の長ネギにするには長ネギに土を盛り、日光を遮り、白い部分を一定の長さ以上にしなければなりません。その土盛りに管理機が大活躍します。利用者さんの中には、管理機を操縦できる方もいますので、活躍の機会も増えます。

大切に使用させて頂きます。本当にありがとうございました。

グループホーム「ハーモニーやまなみ」に移動スーパーがやって来た

「ハーモニーやまなみ」では近所に食料品などを扱うお店が少なく入居者が不便をしていました。そこで、昨年末より、今、話題の移動スーパー「とくし丸」を利用することになりました。週1回、夕方、提携している地元スーパー「とりせん」から仕入れた食品や日用品など400品目、1200点を軽トラに積み、グループホームに来てくれます。入居者にも大好評で、買い物の選択肢のひとつとして今後も継続して行きます。



【障がい者福祉をめぐる私的考察 その1】

障害者総合支援法の改正に向け、通過型グループホームを検討！

2013年に成立した「障害者総合支援法」は3年ごとに大きく見直されます。そして、今、3回目の見直しに向け国の審議機関の「社会保障審議会障害者部会」（以下、国という）で検討しています。今回、見直しの焦点のひとつになっているのが「グループホーム」です。

特に「居宅における1人暮らしへの移行を希望する障がい者を対象として利用期限を設けた通過型のグループホームの創設」が取り上げられています。国は民間の調査会社を用いて「グループホームの運営及び支援内容等の実態把握のための調査」を行いました。そして、「将来、グループホームを出て1人暮らしをしてみたい、又はパートナーと暮らしてみたい」という回答が一定数あるという点に着眼し、「通過型グループホームの創設」の検討がされています。障害者権利条約19条にも「どこで誰と暮らすかを選ぶ権利」の保障が記されており、その実現に向けたサービスとなれば良いと思います。しかし、障がいのある方の地域生活は、グループホームも含む多様な生活の場と障がいのある人の生活を地域で支える仕組みがあって実現するものです。

いまだに障がいのある人が地域で生活するには下記に挙げるように多くの課題があり、その課題に触れずに国は、障がいのある人の生活のゴールを「地域における多様な生活の場」ではなく「地域での1人暮らし」と勝手に決め付けています。

【障がいのある人の地域生活における課題】

- ・地域で安心して生活するための制度的保障や社会資源が圧倒的に少ない。
- ・1人暮らしをするための所得保障がない。
- ・グループホームの建設反対運動や障がいのある人になかなかアパートを貸してもらえないなどの地域の偏見がいまだに大きい。
- ・多くの障がいのある人の生活は、いまだに家族依存が前提となっている。

通過型グループホームの狙いは障がいの軽い人の報酬抑制

国が「通過型グループホームの創設」を検討する裏には、福祉予算の抑制の意図があります。今日のように障がいのある人の地域生活の主役にグループホームがなる以前は、知的障がいの人は辺境の大きな入居施設、精神障がいの人は精神科病院が主となる生活の場所でした。しかし、そうした「社会的隔離」、「社会的入院」といった日本の障がい者施策は人権問題として国際的な批判を浴び、国は障がいのある人の「地域移行」、「社会的入院の解消」を掲げ、グループホームの普及を推奨してきました。そして、グループホームの利用者数は、令和元年11月、入居施設の利用者数を上回り、令和3年2月には約14万人に増えるとともにグループホームに係る予算も増えてきました。

「令和元年度のグループホーム費用額は約2,422億円、障害福祉サービス等全体の総費用額の8.8%を占め、費用額については毎年度増加し、10年間で3.7倍」（社保審資料より）そこで国が考えることはグループホーム予算の抑制です。目を付けたのが前出の調査結果にあった「グループホームを出て1人暮らしをしてみたい、又はパートナーと暮らしてみたい」という回答です。つまり、障がいの軽い人（支援区分の低い人）に通過型グループホームを利用してもらい、社会保障から卒業（予算削減）を目的としているのです。これは介護保険における「軽度者外し」と同じ流れです。そして、通過型グループホームには下記のような心配な点もあります。

【通過型グループホームにおける懸案事項】

- ・利用者確保や空き室が出た場合の減収等による運営の難しさ→就労移行支援の現状と同じ
- ・上記リスクにより報酬・加算を高い設定に→従来のグループホームの報酬が下げられるかも
- ・利用期限による成果主義の導入→更なる営利目的の株式会社の参入によるサービスの質の低下

安心して暮らせるグループホームを守るため、さらなる運動を！

このような状況を踏まえ、過日、「通過型グループホームを設けず、どのグループホームでも本人が希望する暮らしに移行できるようにその支援策を充実させて下さい」という趣旨の要望書を国に対し、「きょうされん」を含む障がい者福祉の7団体で提出しました。

その結果、まだ十分な論議が尽くされていないとして法案化の流れを少し押し戻しました。しかし、まだ予断は許しません。国は福祉予算の抑制のため、あの手この手で法案化を強行してきます。

「きょうされん」は「第45次国会請願署名・募金運動」において、その請願項目に「障害のある人が地域の中で自らの暮らしを選び、安心して生活できるようグループホームなどの制度を充実して下さい」と掲げ、「通過型グループホーム」対しても問題提起をしています。

福祉予算削減のために、地域で暮らすために必要な制度的な保障や社会資源も足りない中、障がいのある人を無責任に放り出すような「通過型グループホーム」については認められません。

「山脈」も「きょうされん」の署名活動等を通じて、このことを多くの方に訴えて行きます。

私達は

ピア！

～自己実現と自己表現の広場～

【てっぴん】 自己中心的な生き方こそが究極の真理だね。

【皇 造】 はい、そう思います。

我がこの世の中で生きていることが基本だと思います。

【てっぴん】 俺は、今後、自分ファーストで生きていくことに決めたよ。今まで他人に尽くしてきたけど、何ひとつ報われなかった。

【皇 造】 でも、あまりにも自分中心だと、いつの間にか「井の中の蛙」状態になるね。

【てっぴん】 う～ん。

【皇 造】 生き方として自分中心になることはいいのだけど、世の中には他人もいるということを忘れてはいけない。そうすると社会が生まれる。

社会を生きる上でどうしても外せないこと。人権、倫理、道徳、教育、学識など。

【てっぴん】 確かに、そこは自分の押さえておくポイントだね。

【てっぴん】 話は変わって、皇造さんは「理想に向かって仙人のように生きる」のと、「尻に火がついて阿修羅の如く生きる」のと、どちらを選ぶ？

まあ、統合失調症患者は前者の方が無難だね。

でも、発狂した阿修羅の方が面白そうだね。

【皇 造】 僕も近頃、似たようなことを考えていたよ。

「天国に行く労者」と「戦場に向かう快感」。なんとなく似ているでしょう？

僕も近頃、阿修羅になりつつある。

ありとあらゆるものとの、或いは人々との関係を常に考えるね。

理想に向かうことに疲れた。

自分と、本とか、テレビとか、曲とか、世話人さんとかの関わりやストーリーをいつも感じ考えています。

僕の場合は、「阿修羅の喜び」かな。

【てっぴん】 「理想の仙人」より「阿修羅の喜び」の方が、一皮剥けた喜びを感じます。

これこそ「リカバリー」です。「阿修羅の喜び」、名言だ！

病気という長いトンネルを抜けたかのような清々しさがあります。

ある日のでっぴんさんと皇造さんのメールのやりとりから